第3期 北区地域包括ケアシステム推進方針令和7年度(2025年度)~令和9年度(2027年度)





北区福祉課

策定の趣旨

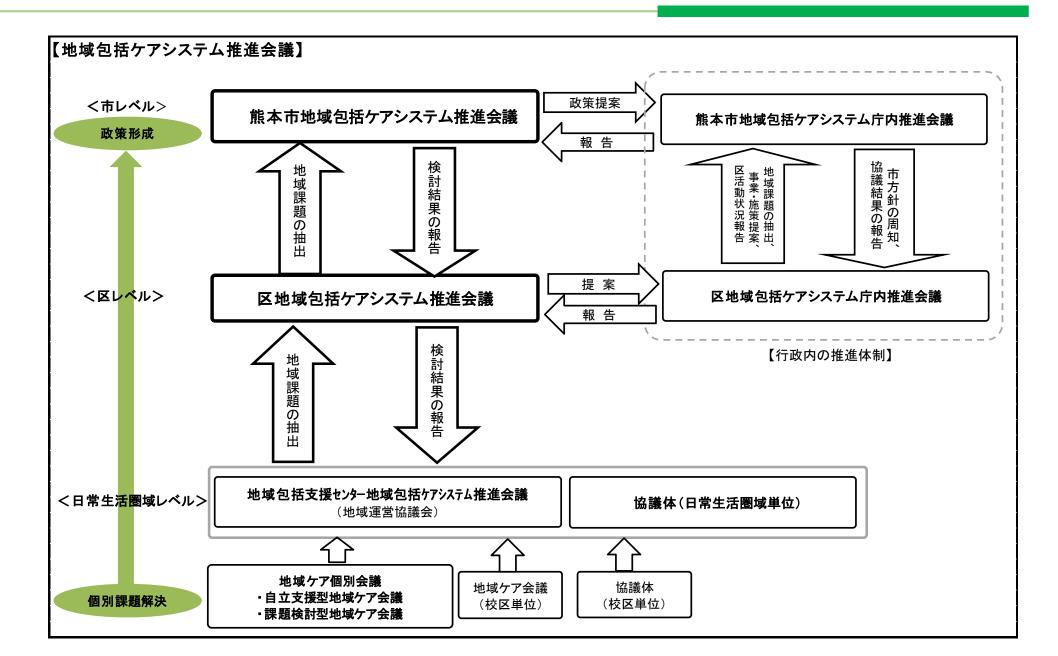
少子高齢化が進むなか、だれもが可能な限り住み慣れた地域で、 自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医 療・介護・介護予防・生活支援・住まいといった各サービスを包 括的、継続的に提供する仕組みのさらなる充実が必要。



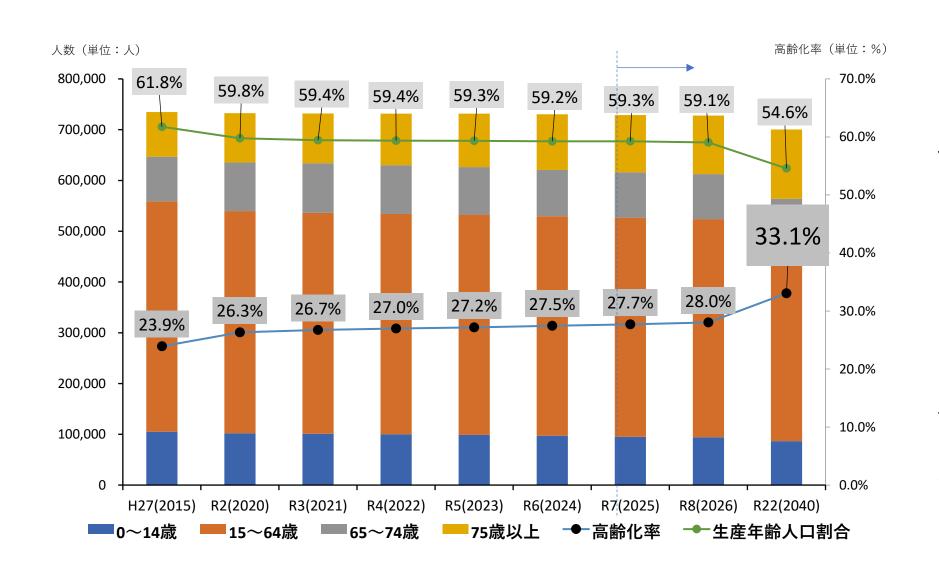
北区地域包括ケアシステム構築にあたって、<u>市民(地域)及び関係機関・</u>団体・行政等が取り組む方向性を共有するために策定しました。



出典:平成25年3月 地域包括ケア研究会報告 「地域包括ケアシステムと地域ケアマネジメント」



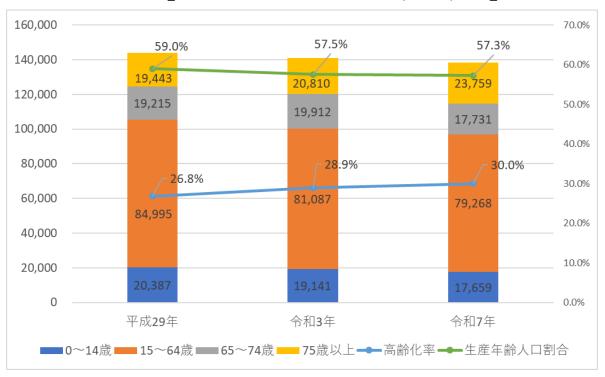
熊本市の高齢者の現状



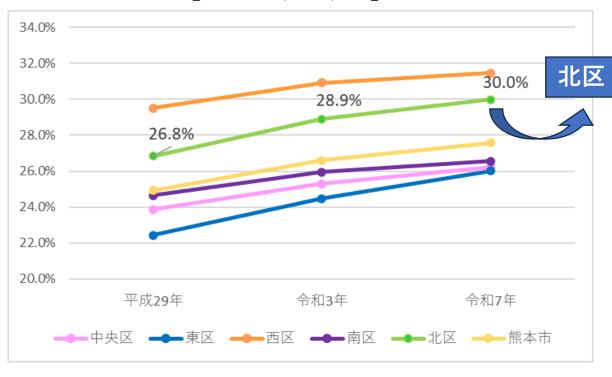
熊本市の高齢 化率は年々上昇 し、令和22年 (2040年) に は33.1%に達す ることが見込ま れ、特に後期高 齢者数の増加が 見込まれます。

北区の現状

【北区の人口と高齢化率の推移】



【高齢化率の推移】



北区の人口は減少傾向にあり、年少人口、生産年齢人口ともに減少しています。一方高齢者は増加しており、北区の高齢化率は令和7年(2024年)4月時点で30.0%と市や他区と比較して高く推移しています。2040年には33.9%と推計されており、要介護(支援)者や認知症高齢者が増加することが見込まれます。

地域課題について

① 互助不足

- ・見守りの必要な世帯(独居・認知症・老々介護等) の増加 ・自治会活動への不参加
- ・一人暮らしやマンション住まいなどで地域との交流がな く生活が見えにくい
- ・家族が遠方などで日頃の支援はなし

⑩社会資源の不足・周知不足

- ・退院後の介護保険申請時に他サービスの 周知やアセスメントの不足
- ・趣味や楽しみのインフォーマル資源の周知 不足
- ・自治会未加入などの理由で、地域活動な どの周知が行えていない可能性がある

9自立支援の意識やスキル不足

自立支援の意識づけが難しい 介護保険利用時の生活目標の具体化や サービス事業所との共有の必要性

8医療介護連携不足

医療との連携がとりづらい 地域資源の周知不足により退院支援時

②コロナ禍による影響

- ・外出の機会・運動の機会・場の減少
- ・地域活動への参加の減少



- ・廃用性症候群・フレイルの恐れ・閉じこ もりの増加
- ・ボランティアの活動の場の減少

③移動手段がない

・移動手段・交通手段がなく、外出に困っている

(環境要因) 坂道が多い・バス停や店が遠い・車の往来が多い バスの本数が少ない乗り継ぎが不便・道が狭いでこぼこ

(身体的要因) バス停や近い距離であっても歩けない



移動手段 がない

交流の場が不足

4 交流の場の不足

- ・つどいの場及び参加者の減少
- 近くにつどう場がない
- ・地域行事への参加の減少
- ・転居後地域との交流がない
- ・介護サービス以外の通いの場の不足
- **・ニーズが多様化している**
- 活動の場が活用しにいくい

に地域資源の未活用

担い手の不足

コロナ禍に

よる影響

家族支援

互助不足

介護サービスの不足

⑤担い手の不足

- ・ちょっとした手助けや支えになる人がいない
- ・住民同士のつながりによる状況把握が難しい
- ・地域活動などの担い手の不足
- ・地域活動へのつなぎが十分でない
- ・特技などをもった高齢者など、地域で活躍できる高齢者 が埋もれている

⑦介護サービスの不足

社会資源の不

足 · 周知不足

自立支援の

スキル不足

医療介護

連携

介護保険を利用しないと購入できない福祉用具がある 短期集中の事業所が少なく利用につながりにくい

6家族支援

- •老々介護
- ・疾病の理解が不足するために過度に安静にして活動量が減る
- ・8050 問題に絡む相談が増えている

第3期 北区地域包括ケアシステム推進方針 令和7年度(2025年度)~令和9年度(2027年度)

北区のめざす姿 「ず~っと住みたい"わがまち北区" |

Ⅱ 北区地域包括ケアシステム推進方針の位置づけ

「熊本市総合計画」の分野別計画に位置付けられる「熊本市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(くまもとはつらつプラン)」に基づき、北区における地域包括ケアシステムを推進していくためのもの。地域包括ケアの深化にあたっては、今の時代に適した形で地域全体で支える力の再構築を進めていく必要があります。

Ⅲ 期間

令和7年度(2025年度)~令和9年度(2027年度)

第3期 北区地域包括ケアシステム推進方針 令和7年度(2025年度)~令和9年度(2027年度)

VI 基本理念

「一人ひとりの人権が尊重され、お互いに支え合いながら、住み慣れた地域で、健康でいきいきとその人らしく安心して暮らし続けられる社会」の実現を基本理念とします。

Ⅲ 基本方針

方針1 高齢者等が安心して過ごせる「仕組みづくり」に取り組みます

方針 2 高齢者等が一緒に楽しく過ごせる「場づくり」に取り組みます

方針3 高齢者等を地域みんなで支える「人づくり」に取り組みます

第3期 北区地域包括ケアシステム推進方針 令和7年度(2025年度)~令和9年度(2027年度)

VIII 計画の目標

1. 健康づくり(介護予防)の推進 【地域における通いの場の数】

	基準値 【令和5(2023)年度】	目標値 【令和 9 (2027)年度】
地域の 通いの場の数	2 3 4	2 4 4

高齢者の見守り(認知症の人・その家族への支援)
【認知症サポーター養成講座の受講者数】

	基準値 【令和5(2023)年度】	目標値 【令和 9 (2027)年度】
認知症サポーター養成講座 の受講者数	1,063人	1,200人

方針1 高齢者等が安心して過ごせる「仕組みづくり」に取り組みます (一部抜粋)

- ○高齢者の社会参加・健康づくりの推進
- スポーツ施設や公民館の趣味活動などの情報収集や情報共有を行い、社会参加や健康づくりを推進します。
- ○障害のある高齢者や障害者を支える高齢者の支援 地域包括支援センターと障がい者相談支援センターとの連携を深め、障がいのある高齢者等への一体 的な支援につなげます。
- ○「人生の最終段階に受けたい医療」の普及・啓発
- 自らが人生の最期をどのように迎えたいかを考えるきっかけとなるよう、エンディングノートの啓発を行います。また、身寄りがない方などでも、医療機関等へ自身の最期の希望を伝える手段となるよう普及を促進します。
- ○民間企業等と連携した見守り体制づくり
- 民間企業等との情報交換や認知症サポーター養成講座の開催を通じて、地域における見守り体制を進めます。

方針2 高齢者等が一緒に楽しく過ごせる「場づくり」に取り組みます (一部抜粋)

○元気くらぶなど住民主体の通いの場の活動支援

市民にとって身近な場所での介護予防活動が行えるよう地域における「通いの場」の創出・活動支援に取り組みます。また活動支援を通じて、健康づくり・介護予防を推進します。

○認知症カフェの活動支援

立ち上げや活動継続を支援し、認知症の本人への支援に加え、認知症の人を介護する家族の不安、負担軽減をはかります。

※認知症カフェとは

「認知症の人と家族、地域住民、専門職等の誰もが参加でき、集う場」で、主に民間の介護事業所や地域のボランティアなどで運営されています。

方針3 高齢者等を地域みんなで支える「人づくり」に取り組みます

○認知症サポーター及びキッズサポーターの養成

地域や学校、民間企業等と連携し、認知症サポーター(キッズサポーター)養成講座を開催し、一層の認知症の理解につなげます。

○チームオレンジの立ち上げ支援

立ち上げを支援し、認知症の本人への支援に加え、認知症サポーターの活躍の機会の拡充に努めます。

※「チームオレンジ」とは

地域において把握した認知症の方の悩みや家族の身近な生活支援ニーズ等と認知症サポーターを中心とした支援者をつなぐ仕組み。

○介護予防サポーターの活動支援

介護予防サポーター等の育成により、地域で活躍する市民を増やし、担い手の育成につなげます。また活躍できる高齢者がボランティア活動をすることにより、生きがいづくりにつなげます。また介護 予防サポーターと通いの場における支援ニーズへのマッチングを進め、活動を支援します。

その他の取組

- ○要介護状態の原因となる骨折予防(フレイル予防・転倒予防・骨粗しょう症)の啓発 通いの場などの活動を通じて、フレイルの予防や転倒による骨折予防、骨粗しょう症の予防について の啓発活動を実施します。また世代に応じた骨折予防を推進します。
- ○生活習慣病の予防の啓発

要介護状態の原因となる脳血管疾患の予防について、世代に応じた予防の啓発活動を実施します。